

## ボトムアップ型部活動への変革

～先行事例の研究をもとに～

神奈川大学 大竹ゼミチームH

下池裕也 増田将吾 田中莉帆 三坂健悟 田畑峻

### 1. はじめに

親が学校教育で子どもにつけさせたい能力は「学力」だけではない。子どもが育つ街研究会が首都圏に住む小中学生を持つ親 500 人を対象に行った調査によると、つけさせたい能力として「コミュニケーション能力(74.6%)」が一番高く、次に「知力 (71%)」が続いた。つまり現在の学校教育では、知力に代表される「学力」だけでなく、よりよく生きる上で必要なライフスキルも重要視されている。

本提言では、学校教育活動の中でライフスキルを習得する手段の一つとして、多くの生徒にアプローチが可能な運動部活動に着目した。文部科学省によると運動部活動は「自発的・主体的にスポーツを行い、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、スポーツの楽しさや喜びを味わい、また生徒が活動を組織し展開することで、生徒の自主性、協調性、責任感、連帯感などを育成する意義を有する」とされており、座学では学べない能力を身につけるものと位置づけられている。しかし、なかには勝利至上主義のために指導者主体の部活動運営がなされ、生徒の自主性が低い部活動になる事例が見受けられる。そこで、運動部活動の運営方法を「生徒主体＝ボトムアップ型」に変革することを提言する。なぜならば、指導者から指示された通りに動くのではなく、生徒が自ら論理的に考えて主体的に行動することで、責任、協調性、コミュニケーション能力などのライフスキルをより効率的に養うことができると考えたためである。なお本提言では、「ボトムアップ型部活動」とは、試合のメンバー決定に始まり戦術や選手交代、練習計画、監督とのコミュニケーション、日常生活の過ごし方など、運営に関する一連の事項について、主将を中心とした生徒自身が決定し実践する部活動とする。

### 2. 目的

生徒主体の部活動への変革については、これまで多くの論者によって提唱されてきたが、未だ実現はしていない。以下では、生徒主体の部活動を実践している先行事例の調査を通じて、どのような過程を経てボトムアップ型部活動を実現させたか、そうした「変革プロセス」におけるキーポイントを明らかにする。その後、この調査で得られた知見をもとに、「ボトムアップ型部活動推進施策」を提言する。

### 3. 調査の概要

先行事例における指導者2名（広島観音高校顧問（当時）：畑喜美夫氏、堀越学園外部指導者：佐藤実氏）を対象として、インタビュー調査を実施した。「ボトムアップ理論」を部活動に取り入れた第一人者である畑氏には、「ボトムアップ型部活動の実態」について質問した（平成25年8月27日）。また、指導者主体から生徒主体へと部活動の在り様を変革させた佐藤氏からは、「ボトムアップ型部活動への変革過程」について聞き取りを行った（平成25年8月30日）。

### 4. 調査結果と考察：なぜかわったのか？

堀越学園がボトムアップ型の部活動へ変革するにあたって4つのフェーズを踏んでいたことが明らかになった。

#### ＜フェーズ1＞教育信念の転換

大会で勝利を目指して生徒を徹底的にしごく部活動運営方法に疑問を抱き、「生徒の将来のための部活動運営を行うべきだ」という教育信念への転換が佐藤氏に起こっていた。この様子からは、部活動をボトムアップ型に変革させるためには、まずは指導者が持つ教育信念を自ら反省的に振り返ることが重要だといえる。

#### ＜フェーズ2＞指導者・生徒間における「ビジョンとミッションの優位性」の共有化

両氏によると、ボトムアップ型部活動の「ビジョン」とは、部活動を通じて生きる上で必要なライフスキルを学ぶ事で、「ミッション」はその為に何をするのかということである。ここで留意すべきことは、「ビジョン」は「ミッション」より優位性をもつものだと指導者と生徒が認識を共有していたことである。変革過程の初期段階でこうした共有化がなされたことは、指導者と生徒が目指す部活動運営にズレを生じることを防いでいた。

#### ＜フェーズ3＞ボトムアップ型部活動実現に向けての具体的な環境整備

堀越学園ではボトムアップ型部活動の実現に向けて以下のような具体策が取られていた。

- 相手の意見を尊重する「否定なしミーティング」を導入した。
- ボトムアップ型にする事によって生じるコミュニケーションの希薄化を防ぐために「コミュニケーションノート」を活用した。
- 部員全員に役職を与え、それぞれに責任感や発言する機会を創出する「全員リーダー制」を導入した。

#### ＜フェーズ4＞ステイクホルダーの理解の獲得

生徒だけでなく、教職員や保護者、地域住民といった部活動に関わるステイクホルダーともベクトルを合わせるために部活動のビジョンを共有していた。

### <KeyPoint>

以上の分析より、ボトムアップ型の部活動が実現した要因として以下のようなキーポイントが明らかになった。

- ① 指導者の教育信念の転換
- ② 部活動のビジョンとミッションの共有を生徒に図れた点。
- ③ ボトムアップ型の部活動を実現させるための環境構築がなされていた点。
- ④ コミュニケーションも密にとれ、信頼性を得ていた点。
- ⑤ ステイクホルダーの説得

## 5. ボトムアップ型部活動推進策

先行事例の調査によって明らかになった①～⑤の「KeyPoint」に基づき、以下では、「ボトムアップ型部活動推進策」を提案する。この推進策は、「ボトムアップ型部活動推進委員会の設立」と「ボトムアップネットワーク構築」を2本の柱とする。

### 5-1.ボトムアップ型部活動推進委員会の設立

「ボトムアップ型部活動推進委員会」（以下推進委員会と記す）を中学校体育連盟、高等学校体育連盟の組織内に設置する。構成メンバーは、最高顧問にはボトムアップ理論について深い理解をもつ「有識者」を登用し、委員長には「中・高体連会長」を、役員には「各都道府県の中高体連の会長」や日本PTA全国協議会会長などの「教育における有識者」などとする。こうした推進委員会が中心となり、以下の事業を展開していく。

#### (1)教師の教育信念転換のための諸事業【KeyPoint①、④を参考に】

部活動を指導する教師の教育信念を転換させるために、以下の事業を推進委員会が開催する。そこでは、「生徒が主体的に運営することの意義」等を啓発する。

- 年1回の「全顧問会議」の際に講演会
- 免許更新の際にボトムアップ型部活の講習会
- 生徒 - 教師間における信頼と絆構築のための研修会

#### (2)啓発イベントの開催【KeyPoint t②、③を参考に】

ボトムアップ型部活動の認知度の向上と生徒に体験させることを目的として推進委員会が各都道府県単位で開催する。

<対象>都道府県に在籍する学校すべて

<イベントコンテンツ>

- ボトムアップ型部活動の魅力を紹介
- 生徒主体でゲームを開催する。

<ルール>

- 先生は試合会場において一切の指導を禁ずる。
- 大会の運営も生徒が主体となって行われる。

<開催のメリット>

生徒にボトムアップ型部活動で得られること等を伝えた後に、部活動を生徒主体で展開する事の重要性を伝えたあとに、実際にゲームを通して自ら考え、行動する一連のプロセスを体験させることができる。

### **(3)教員養成カリキュラムにボトムアップ型部活動論を必修化【KeyPoint①を参考に】**

現行の教員養成課程では部活動の指導法について学ぶ機会は非常に少なく、そのため部活動の意義や指導方法を学んだことがない人が、現場の教師に採用されてしまう可能性がある。そこで、カリキュラム内に生徒主体の部活動の重要性やボトムアップ理論による指導方法を学ぶ授業を必修化し、より教育的意義の高い部活動運営を担える教師を養成する。

## **5-2.「ボトムアップネットワーク」の構築**

このネットワークは単体で部活動変革を行うよりも、学校毎で異なる事例や対策を共有し、より効率の良く部活動変革を目指すためのものである。

### **(1)ステイクホルダーを対象とした講演会の開催【KeyPoint⑤を参考に】**

ネットワークに所属する指導者が中心となり、各地域でステイクホルダーを対象に講演会を月に一度定例化して行い、ボトムアップ型部活動の重要性についての認識を広める。

### **(2)ネットワーク内に研究会の設置【KeyPoint③を参考に】**

ボトムアップ型部活動の成功例等について研究する部会を設け、変革に必要な知見を蓄積する。そして、『ボトムアップ型部活動変革のためのハンドブック』を作成するなど、今後変革に取り組む現場を支援する環境を整える。

## **6. まとめ**

このように、先行事例の分析から得られたキーポイントをもとに考案した「ボトムアップ型部活動推進策」を実施していくことによって、これまで実現されなかった生徒主体の部活動への変革が可能となる。

<参考資料 URL>

・子どもが育つ街研究会 公立の小中学校に通う子どもを持つ保護者を対象に 2012 年 10 月に行った調査より

[http://www.pref.ibaraki.jp/news/2012\\_11/20121113\\_06/files/20121113\\_06a.pdf](http://www.pref.ibaraki.jp/news/2012_11/20121113_06/files/20121113_06a.pdf)

・文部科学省「部活動の意義」

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/html/hpad199801/hpad199](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpad199801/hpad199)